

目指す子ども像 —「はむらの学校教育」—

① 主体的に学ぶ子ども

- 「主体的に学ぶ」とは、子どもがいくつかの選択肢から、自分なりの根拠に基づいて、学習課題や内容、方法等を選択・決定しながら学ぶことです。
- 現代社会は、グローバル化の進展や目覚ましい技術革新により急速に変化し続け、予測困難な時代を迎えています。こうした時代を生き抜くためには、様々な変化に積極的に向き合い、課題を見付け、その解決の方法等を自ら工夫しながら学び続ける必要があります。主体的に学ぶ子どもが求められるゆえんは、ここにあります。



② 励まし合い、支え合い、高め合う子ども

- 友達と協力し励まし合って、よりよい学級や学年、学校をつくろうとする子どもの育成は、取りも直さず、よりよい社会の担い手を育むことにつながります。
- 学級や学年の中で自分の役割や責任を自覚し、互いに協力し励まし合う関係づくりは、所属集団の充実はもとより、思いやりや感謝の心、利己心を克服し協力し合って集団生活の向上に努めようとする態度など、各人の資質・能力を高め、人間的な成長を促進します。
- また、互いに協力し合う中で生じる友情は、互いの特徴や個性を尊重し、競い合い、高め合うことによって更に深化します。

③ 自己実現に努める子ども

- 自己実現とは、「自らのよさや可能性を発揮しながら生きること」です。自己実現の積み重ねが、夢や理想をかなえることにつながります。
- 自己実現を支えるのは、折々に目標をもち、計画を立て、勤勉に努めようとする態度と自尊感情です。
- 「目標・計画・勤勉」を合言葉に、たゆまず、あせらず、おこたらずに取り組む子どもを育むため、一人ひとりの成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることで、子ども自身が「やればできる、伸びている、役立っている」という実感を、より多く抱くようにすることが重要です。

感情ではなく愛情で

野球評論家 野村 克也

感情ではなく愛情で 褒める、叱る

出典：公立学校共済組合東京支部広報誌「かがやき」2018 Winter No.547

※ 愛情に基づく言葉は、本人にプラスに響くものです。